

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



【特集1】

駐日インド大使が
島根大学を訪問

vol. 43

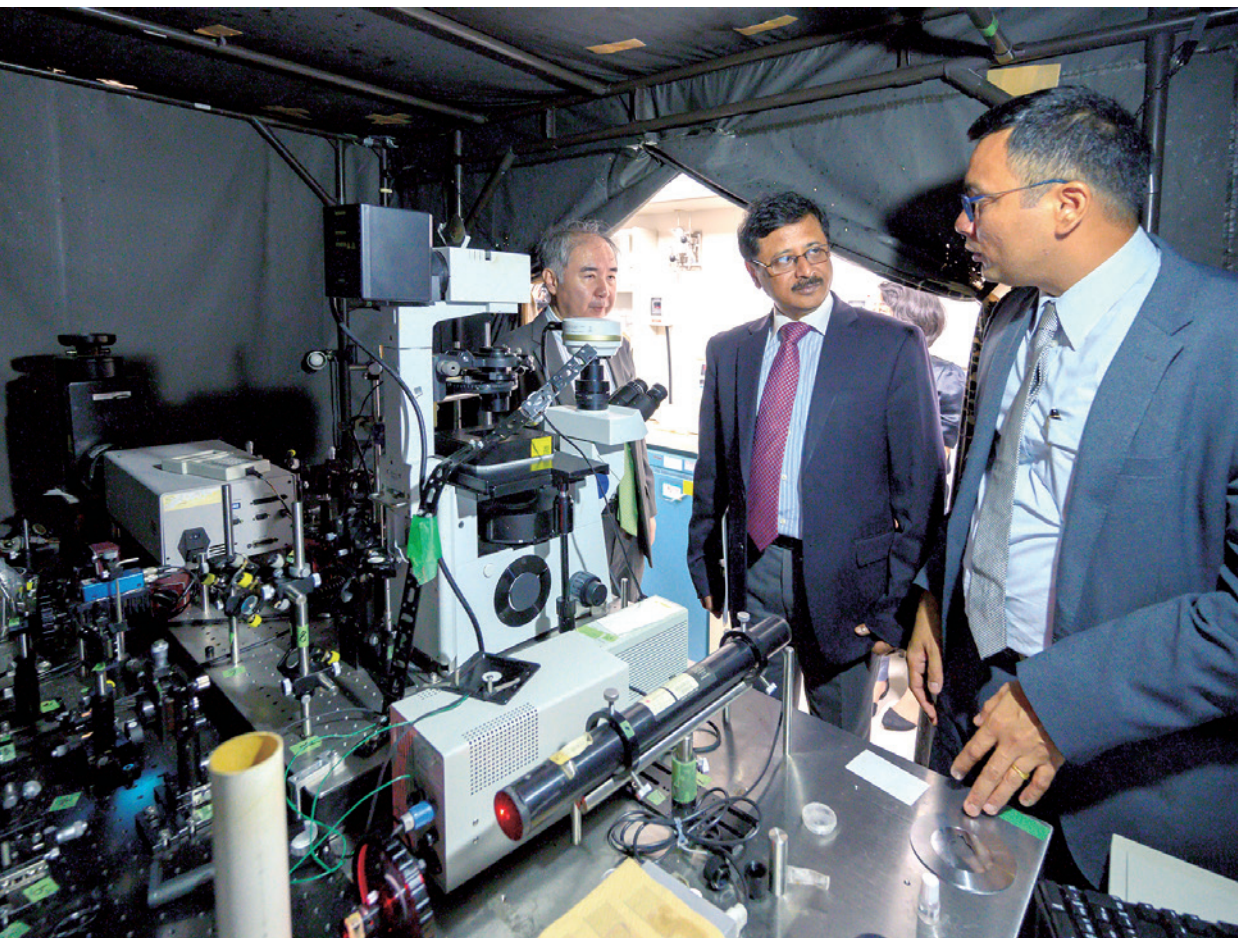
shimadai

2020.1

【特集2】 島根大学開学70周年記念式典を開催

駐日インド大使が本学を表敬訪問

インドとの交流の深化を目指す



8月30日(金)、サンジエイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使が島根大学を表敬訪問しました。島根大学との学術・文化交流を深めることを目的に、各所で意見交換や視察等が行われました。

島根大学とインドの学術交流の深化と促進

当日はヴァルマ大使が本学を訪問し、服部学長と面会。島根大学が現在進めている研究について紹介した後、今後の学術研究交流促進について意見交換を行いました。その後、インド人として初めてノーベル物理学賞を受賞したチャンドラセカール・ラマン博士が発見した光学理論「ラマン分光法」に関連する研究を行う、「医・生物ラマンプロジェクト

vol.43 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 09
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①医学部 野津 雅和 助教 11
- ②生物資源科学部 中間 由紀子 助教 13
- ③次世代たたら協創センター 森戸 茂一 教授 15
- 手銭記念館との取り組み 17

- 社会で活躍する卒業生
- 出雲市立第二中学校教諭 木下 眞次 さん 19
- しまだい便り 21
- しまだい's サークル 24
- 島根大学支援基金より 25
- 読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

さらに活発化する
インドとの交流事業

現在島根大学は、積極的にインドとの学術・文化交流を進めて

クトセンター」を視察。研究する学生との交流などを行い、ヴァルマ大使は「島根大学とインドとの協力を深めて人材育成を進めて、様々な研究分野で課題解決を目指したい」と述べられました。翌日は、出雲大社を正式参拝した後、出雲大社の千家尊祐宮司と歓談をされ、両国の古く長い歴史と文化交流などについての意見の交換をしました。



島根大学×コーチ理工大学プロジェクトオフィス開所式の様子

います。インド科学大学をはじめとする8校との学術交流協定を締結し、短期交流プログラムでの留学生の受け入れを行っているほか、日本人学生の派遣、共同研究等により複数の学術・研究機関と



クリケットを通して地域交流



南インド古典舞踏家による講演

文化交流の促進が期待されます。交流しています。なかでも、協定校の1つであるコーチ理工大学には、共同プロジェクトオフィスを設置し、日本語教員を派遣するなど、盛んな交流が行われています。また山陰地域全体でも、中海・宍道湖・大山圏域市長会インド・ケララ州IT人材確保・企業連携事業、留学生によるクリケットチームを通じた小学生との交流イベントなど、官学民の様々な立場での交流が行われて、その成果も現れつつあります。今回のインド大使来学をきっかけに、本学とインドの学術研究機関との更なる学術研究交流促進、山陰地域とインドとの文化交流の促進が期待されます。

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2020.1 vol.43

【特集1】
駐日インド大使が本学を訪問 01

【特集1】
島根大学開学70周年記念式典を開催 05

【特集2】
SDGs達成を目指す取り組み 07



学長対談

服部泰直学長 × サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使

今回の訪問をきっかけに、どのような連携や交流の促進ができるのか、それぞれの意見や考えを語り合いました。

グローバルな視点と柔軟な思考を持った若者の教育を推進

学長 この度は島根大学にお越し頂き、ありがとうございます。本学はこれまでもインドとの交流を大切にしてきましたが、さらに連携を深めていきたいと思っています。

大使 インド工科大学との協力は重要です。なかでもインド工科大学ハイデラバード校は鍵となる大学の一つで、日本のODAで建てられたビルもあります。今後は、CSIR(科学産業研究評議会・インド国首相直轄の研究開発機関で傘下に約40の国立研究所を持つ)との連携も不可欠となるでしょう。

学長 アジア諸国では人口は増

加している地域も多く、そのような地域の人達には比較的人口が少なく自然豊かな島根の地は都市部にはない魅力があるのではないかと考えています。しかし人口が少ないということが逆に言えば弱点でもあり、少子化の中で育ってきた若者には競争力が弱い面もあるように感じます。一般的に日本の学生は真面目だと思いますが、もしかするとそれは消極性に通じるウイークポイントになるかもしれませんね。

大使 確かにそういった面はありますね。インドの若者は変化に対して素早く反応し、問題への解決策も素早く出します。その解決策は、完全に整理されている必要はなく、大事なものは、その解決策が上手く行くかどうかだけですね。日本の若者は、完全な模範解答を求めすぎるとは思いませんね。「素早さ」と「とりあえず上手く行く」ということの二つを日本の若者は身に着けた方がよいと思います。また、イン

**交流と協力を後押しし
相互理解を深めるため
英語教育のさらなる充実を**

ドの若者は社会の階層を上昇するために、いつも競争しています。日本では、最低限の生活が社会的に保障されているほか、組織のトップに立つためには、ある程度年齢が上がってからです。インドでは能力さえあれば、いきなり若い人が組織のトップになります。

学長 素晴らしいですね。学生には、そのような積極性を期待したいです。話題は変わりますが、島根大学の研究の印象はいかがでしょう？

大使 大いに可能性を感じます。研究上の小さなことばかりにとらわれず、大局を見た研究に期待しています。同じような研究内容を、他と同じように行っても無意味でしょう。特色が大事で「小さくまとまるな」ということです。そういう面で島根大学の研究は独自性のあるものが多いと感じます。

学長 インドと日本では教育面の連携が難しく感じます。どういったところに理由があると思われるか？

大使 言葉の問題が大きいです。研究面の連携と比較して、教育面での連携は言葉の問題を解決しない限り、難しいでしょう。インド人にとって日本語を学ぶ必要があるというのは、抵抗を感じる人が多いと思います。

学長 大学院での授業は、英語でも受講できますので、言葉の問題は小さいのではと思います。ところで、そんなに日本語の修得は障壁になるのでしょうか？

大使 インド人は英語が得意ですから、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなどの英語圏のほうが留学先としてはるかに有利です。

学長 なるほど、わかりました。言葉の問題を考慮すると、島根大学で教育を受けたい英語コースの留学生を増やすのがいいかもしれません。それから、日本人学生を海外に派遣したいです

ね。本学の日本人学生の留学先は、欧米やアジアが多いのですが、インドに留学している学生は少ないように感じています。さらに多くの日本人学生が海外留学するためにも、外国語教育の充実や外国人教員の増加など、学内のグローバル化を進めたいと考えています。

最後になりますが、インドにおける日本文化の受け止め方はいかがでしょう？

大使 インドに「COCO壺番屋」が進出するそうで、インドでも話題になっています。日本のアニメや漫画などのコンテンツは、インドでもとても流行っていますよ。様々な面でインドに対して日本が友好的なのはありがたいことです。

学長 今後とも両国また島根大学との交流や協力を深めていきたく思います。本日は対談にありがとうございました。

大使 大変、有意義な時間を過ごすことができました。こちらこそ、ありがとうございました。

服部泰直

1956年生まれ。1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、同年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月島根大学総合理工学部長、2012年4月島根大学大学院総合理工学研究科長、2015年4月島根大学学長に就任。



サンジェイ・クマール・ヴァルマ

1965年生まれ。1988年インド外交職 (Indian Foreign Service) に採用され、在香港インド総領事館、中国、ベトナム、トルコのインド大使館に勤務。その後、在ミランインド総領事、駐スーダン共和国インド大使を歴任し、2019年1月、駐日インド大使に着任。



地域とのさらなる連携強化・学内関係者の結束を強化

島根大学開学70周年記念式典を開催



ホテル一畑の平安の間で行われた記念式典の様子。

70年の歴史を受け継ぎ、さらなる発展と飛躍により世界に輝く大学へ

島根大学は、旧制松江高等学校、島根師範学校、島根青年師範学校を母体に1949年に発足し、現在では6学部5研究科からなる総合大学として、今年度開学70周年を迎えました。これを記念して、10月26日(土)に「島根大学開学70周年記念式典・祝賀会」を松江市のホテル一畑にて開催しました。約190人が出席した記念式典では、服部泰直学長の挨拶の後、来賓の皆様からの祝辞、多数寄せられた祝電が披露されたほか、日立金属株式会社代表取締役執行役社長佐藤光司氏に



式典で挨拶する服部学長。

「キラリと光る地方大学」ただ「ら」から始まる先端金属材料拠点島根大学の夢の実現」と題して、本学の卒業生でもある大阪大学大学院文学研究科教授の湯浅邦弘氏に「ここに咲く花」卒業生の期待する島根大学」と題して、それぞれ講演頂きました。

祝賀会では、全国より一般公募した80作品の中から選考した歌詞に、島根大学教育学部音楽教育専攻の学生を中心に作曲を行った、島根大学愛唱歌「すがしき風」が披露されました。和やかな雰囲気の中で歓談や交流が行われ、地域の皆様との連携の強化や学内関係者の結束を固める機会となりました。

島根大学では、今後も教育・研究・医療及び地域貢献をとおして、地域に活き世界に輝く大学の実現を目指し、努力をしていきます。

70周年式典 ダイジェスト



1 記念講演 I

キラリと光る地方大学

―「たたら」から始まる先端金属

材料拠点 島根大学の夢の実現―

佐藤 光司氏



佐藤 光司氏
(日立金属株式会社
代表執行役 執行役社長)

たたら製鉄をはじめ島根に古代から伝わるものづくりの力を、最先端の産業に生かしていく「次世代たたら協創センター」を開設した。この取り組みは、地方大学の中でも材料工学、材料解析の分野で屈指の研究力を持つ島根大学を中心に産官学の連携で人づくりを進めていく。

次世代ジェットエンジン・モーター

素材のブレイクスルー研究に向け、超耐熱合金の分野で世界的権威であるオックスフォード大学ロジャー・リード教授を所長として迎えた。来年度中には研究拠点となるセンターの建物が完成するので、ワゴンチームとして研究、人材育成を推進する。島根に付加価値を残し、育成した人材が世界で活躍し、その後島根に戻ってきて成果を循環させる仕組みを構築していきたい。

2 記念講演 II

ここに咲く花

―卒業生の期待する島根大学―

湯浅 邦弘氏

自分にとって島根大学は、全国各地から集まった学生や教職員と触れ合うことで、異文化を摂取し、視野を広げ、人生には様々な選択があることを学ぶ場であった。昭和63年に島根大学に赴任し、『史記』の著名な注釈者である郷土出身の瀧川君山について学生と学んだが、地域の歴史と文化を検証し、伝えていく



湯浅 邦弘氏
(大阪大学大学院
文学研究科 教授)

大切さを感じた。この経験を活かし、大阪大学の創立70周年記念事業では、阪大の源流とされる漢学塾「懐徳堂」の旧平面図をもとに、工学の研究者や民間企業等と共同し3次元復元を行い、産学連携を実践した。現在、言われている地方創生の拠点は大学であり、地域だからできる事は何かという意識を持ち、大学での教育や研究を実践することが重要である。



湯浅教授による講演の様子。

3

島根大学 愛唱歌 「すがしき風」発表



祝賀会で愛唱歌を披露する音楽教育専攻の学生たち。

70周年を記念して制定された愛唱歌「すがしき風」が、祝賀会において披露された。歌詞は一般公募により、島根県松江市・佐藤祐子さんの歌詞を採用し、楽曲については教育学部音楽教育専攻の羽山歩里さんが同専攻の学生・教員の協力のもと作曲した。



愛唱歌は
こちらから



世界を変え、未来に引き継いでいくために

島根大学の取り組みにみるSDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsってなに？

SDGsとは、貧困や不平等、格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。



「誰一人残さない」理念のもと 世界で取り組む17の目標

SDGs(エスディージーズ)持続可能な開発目標)の日本における名称認知率は全国平均で16%(*)です。認知率の低さの背景には、世界規模の課題は国や政府、企業が取り組むもの—という認識があるのかもしれない。しかし、SDGsは私たち一人ひとりにも密接に関わっている問題です。SDGsを知る機会さえあれば、その世界観には多くの人が共感し、アクションに繋がる可能性が高いと考えられます。

島根大学では、高度情報化、グローバル化、地域活性化等の現代・未来課題に対応し、総合大学としての強みを活かした文理融合の研究・教育を推進しています。この度、SDGsに関する「島根大学の行動指針」を策定しました。大学の運営にSDGsの観点を取り入れ、地域や国際社会と一体となって、SDGsの目標達成のために貢献していきます。

(*)…「第2回電通SDGs生活者調査(2019年2月)」より

島根大学SDGs 行動指針

島根大学は、大学憲章において、自然と共生する豊かな社会の発展に努めることを謳っています。わたしたちは、不断の教育・研究・医療等の活動はもとより、地方創生の推進、平和な国際社会の発展とインクルーシブな社会の実現に寄与する人づくりを通じて、SDGsの達成に向けて活動することにより、持続可能な社会の構築に貢献します。

特に、島根大学の地理的特性を生かし、自然環境の保全・継承のため、地域と強く連携し、あわせて学生のSDGs意識を高める教育に努めます。

令和元年11月14日

国立大学法人島根大学長

服部 泰直

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

島根大学の取り組み紹介



外傷診療の最先端 救命率の向上を目指す

平成29年4月、医学部附属病院では「高度外傷センター」を設置しました。島根県全域を対象に、交通事故をはじめ不慮の事故により、中等症以上で専門的な外傷診療が必要な患者さんに対して早期の治療を行い、救命率の向上を図ることにより県民の皆さんの安全と安心の確保に努めています。



高度外傷センター 渡部 広明
センター長 / 教授



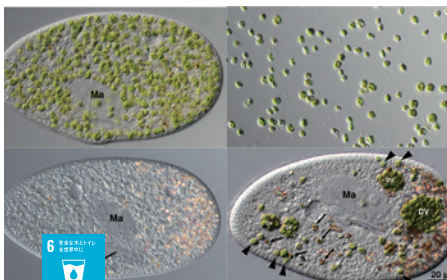
持続可能な社会の構築に向けた 学校現場での授業実践の開発・研究

松本一郎研究室(教育学研究科)では過去19年にわたり地域の小学校を中心に、特に野外学習支援を通した自然環境教育とその研究に力を注いできました。従来学校で学ぶ内容のうち「環境意識」を向上させるような、授業実践の研究・開発に尽力しています。学習を通して、地球環境の大切さ、人間社会の在り方・方向性などを自分事として実感し、主体的に考え、行動できる人材が社会の中で増えてほしいと願っています。



多様性(ダイバーシティ)の推進

本学は、昨年6月に「島根大学ダイバーシティ推進宣言」を公表し、男女の性別だけでなく、国籍、信条、文化、年齢などのダイバーシティを積極的に活かすという視点をもった環境づくりを進めています。また、2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の採択を受け、昨年11月には、島根県立大学、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校とともに「SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク会議」を設立し、地域が一体となった取組も進めています。



ミドリゾウムシで 細胞内共生の解明を 生物の進化の謎にも迫る

近所の田んぼやため池など身近に存在する、ミドリゾウムシの細胞内共生という世界でも珍しい研究を進めることにより、メカニズムの解明とともに、地元企業と共同でゾウムシの水質浄化作用の活用にも取り組んでいます。



生物資源科学部 生命科学科 児玉 有紀 准教授



産官学が連携 先端金属材料の聖地「島根」を目指して

本学が参画し、島根県が申請した内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に「先端金属材料グローバル拠点の創出—Next Generation TATARA Project—」が平成30年10月に採択されました。オックスフォード大学に所属し、超耐熱超合金の世界的権威であるロジャー・リード教授を次世代たたら協創センター長にむかえ、若者に夢を与える「先端金属材料の聖地「島根」」を創出していきます。



地域・世界における取り組み 「自然災害軽減教育研究センター」立ち上げ

平成30年4月、中国地方(特に山陰地域の)災害調査・研究活動、ユネスコフェア「地球環境災害軽減」の推進、「国際地盤災害軽減機構」事務局運営、防災減災教育・人材育成を目的に「自然災害軽減教育研究センター」を立ち上げました。



自然災害軽減 教育研究センター 汪 発武 センター長 / 教授



汽水域の持続的な保全と 利活用を目指したエスチュアリー研究

平成4年に国内唯一の汽水域研究機関として発足した「汽水域研究センター」は、平成29年度に「エスチュアリー研究センター」に改組されました。同研究センターは、環境変動解析部門、流動解析部門、水圏生態研究部門の3部門から構成され、日本およびアジアの汽水域を中心として、その流域や周辺の沿岸域と低地を対象に、持続的な保全と利活用に向けた幅広い研究に取り組んでいます。



SDGsの目標に関連したテーマによる サイエンス・カフェを実施

島根大学サイエンス・カフェでは、毎回、SDGsの目標に関連した話題を取り上げます。教員が行う研究や教育について、コーヒーを飲みながらリラックスした雰囲気の中で地域ステークホルダーの方々や気軽に語り合う場となることを目指します。



▲詳細はこちら

島根大学×SDGs 専用ページを開設!

本学でのSDGsに関する取り組みについて専用ページを作成しました。詳細はこちらをご覧ください。



<https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/policy/SDGs/>

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、101の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

TO



留学先

インド

まじま えり

間島 絵吏さん

(法文学部 法経学科 4年)



企業や人との交流を通じて キャリアに対する考えが変化

大学1年の時に短期研修でカナダやベトナムへ行き、各国の学生と交流したことで、もっと視野を広げたいと思い長期留学を決定しました。トビタテ留学 JAPAN を利用して、2018年の4月から約半年間、インドにインターンシップへ行きました。インドの多くの企業や人と関わりたくて、人材紹介系の会社を選びました。企業を回って会社が求める人材などをヒアリングする中で、インドでは転職が当たり前で、自身のキャリアに対して真摯に向き合える環境だということに驚きました。インドの実情を見て、日本でもキャリアに対する意識を変える環境作りが必要なのではないかと思いました。卒業後はIT企業へ就職予定ですが、誰もが働きやすく仕事を続けやすい環境づくりを、ITを使ってサポートしていけたらと考えています。



1. ボランティア活動で子どもたちに国旗や塗り絵の説明をする様子。2. インド人男性の誕生日祝いの様子。祝われる人が周りの人に手でケーキを食べさせる風習があります。

FROM



出身国
インドネシア



レオナルド・ヘリヤント
Leonardo Heriyanto さん
(生物資源科学部 農林生産学科 4年)



1. イネの開花をデジタルカメラで撮影する様子。大学には研究のための設備が整っています。 2. 松江城に行った時の一コマ。城に魅了され、歴史を感じました。



1.

日本での暮らしを通じて 徐々に一人前に成長

東京の日本語学校、北海道の短期大学を経て、島根大学へ3年次編入しました。現在はイネの開花の撮影方法について研究を進めています。花は高温障害を受けやすいので、花の状態観察が簡単であれば、高温対策にも役に立ちます。デジタルカメラの深度合成機能を使って、自動でピントを変えながら連写し、それを合成して質の良い1枚の写真を作っていきます。今は卒論発表に向けて実験結果をまとめる最終段階です。日本に来て約6年、何度も新しい環境を経験したので、人との接し方が自然と身につきました。また、一人暮らしを始めてアルバイトや自炊をするなど、生活面でも成長できたと思います。すでに日本で就職が決まっていますが、将来的には日本で学んだことを母国に戻って活かしたいと考えています。

TO



留学先
中国



ちば
千葉 みのり さん
(人間科学部 人間科学科
心理学コース1年)



1. 蘇州・拙政園にて。独自の文化を感じられました。2. 南京林業大学で知り合った玉さんと、島根大学にて。毎週会って、お互いの母語や文化の理解を深めています。



1.

文化や人と交流を経て 国境を越えた友情の輪

夏季休業を利用して、中国の南京・蘇州・上海へ1週間の文化研修に参加しました。高校時代に中国のドラマにはまったことがきっかけで中国に興味を持つようになり、現代の中国も見たいと思い、研修への参加を決めました。南京では、南京林業大学を訪問し、日本語学部との学生と交流しました。お互いの学生生活などについて話しましたが、その時に同じグループで交流した中国の学生が、10月から島根大学に留学しています。学内で偶然再会した時には本当に感動しましたし、今では毎週会うほどの仲になりました。実際に中国に行くと文化に触れ、人と交流できたことで、日本にいたら分からなかった違いに気付くことができました。また、中国で生まれた友情の輪が、今、島根大学でも繋がっていることがうれしく感じます。

内分泌代謝疾患と 骨折との関係を研究 予防してADL維持狙う

骨の細胞内の物質が 石灰化を阻害すると解明

骨の中には、さまざまな細胞があります。そのうち表面にある「骨芽細胞」と「破骨細胞」が、骨を再構築する役割を担っています。破骨細胞が古い骨を溶かした後、骨芽細胞が現れて再びコラーゲンを作り、カルシウムなど骨の材料を取り込んで新しい骨を生み出していくのです。野津助教は、糖尿病患者さんの多くは骨がもろく骨折しやすくなっているという臨床事例をもとに、糖尿病患者さんに蓄積されやすい老化物質「AGE」（終末糖化産物）を、骨芽細胞に振りかけて培養する実験を実施。AGEを添加

私たちの体を支え、脳や内臓などの臓器を保護してくれている骨。そんな骨の中にある細胞が全身の様々な臓器とネットワークを形成していることをご存知でしょうか。医学科の野津雅和助教は、甲状腺、副腎、糖尿病などの内分泌代謝疾患と骨折との関係を研究、骨折を回避できる予防や治療に力を入れています。

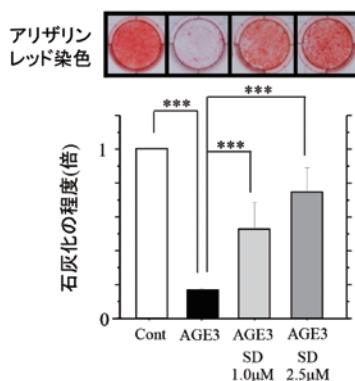
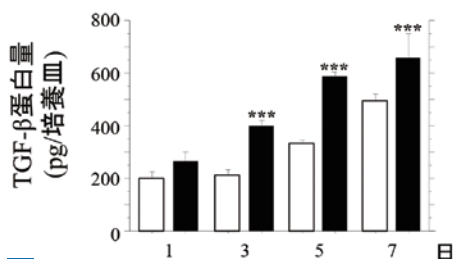


PROFILE

医学部 医学科
野津 雅和 助教
のつ まさかず

島根でも全国レベルの診療が提供できる体制を目指して、国内外の学会を奔走中です。魅力的な指導者や先輩、同僚に囲まれ、診療・研究・教育・疾患啓発活動に尽力しています。バタバタな日常を快くサポートしてくれる家族や両家父母には感謝しかありません。

ヒト間葉系幹細胞



2



4



3



1

1.世界糖尿病デーの関連イベントとして、出雲日御碕灯台で行われた「みさきナイトフェスタ」にブース出展。2.ヒトの骨芽細胞の石灰化の程度を示した図。骨が育っているとカルシウムに反応して赤く染まるが、終末糖化物 (AGE3) を振りかけたものは骨ができていないことが分かる。3.医学部附属病院内の「ちょっと気になる健康講座」で講演する野津助教。4.米国内分泌会議(シカゴ)の様子。

しなかった細胞は約2週間です。石灰化したのに対し、添加した骨芽細胞は石灰化が抑制されました(図2)。また、骨の約95%を占める骨細胞にAGEを振りかけると、通常の2、3倍の量の細胞が死滅してしまうことも判明しました。「骨がもろくなっている糖尿病患者さんを診ているのが要因だと分かってきました。臨床で起こっていることが初めて、基礎研究で解明できました」。

AGEを振りかけると、TGFβというタンパク質の一種が増加していることも解明。TGFβを阻害する試薬を添加すると、逆に骨の石灰化が回復することも分かりました。「2型糖尿病患者さんは骨密度が高いのに、骨が折れる人が多く不思議でした。密度ではなく、骨の質が低下していることが分かったので、骨折予防につながりたいと考えています」と野津助教。

生活の質を保てるよう 骨折リスク低下を目指す

国内では、内分泌代謝疾患の骨折のリスクについて研究する人が少ない中、野津助教が取り組み出した理由の一つが、骨折による身体機能の低下がADL(日常生活動作)を著しく低下させることでした。野津助教は、「近年は多くの疾患の治療法が確立されつつあり、適切に治療すれば長寿も期待できます。しかし、たとえば大腿骨近位部骨折の発症1年後にはADLが低下する患者さんが約8割、死亡に至ったケースも2割あります。骨折を予防することは、とても重要なことです」と力を込めます。地域向けの公開講座や患者会で、病気についての知識や対策などを積極的に発信。11月には、世界糖尿病デーを前に出雲大社本殿などをブルーライトアップ、啓発活動を行いました。

野津助教は、高血圧症の約1割を占める原発性アルドステロン症の患者さんに、骨折リスクが高まっていることを世界で初めて報告、国内外にインパクトを与えました。「地方からでも世界に向けて発信していきたいことを学生たちには知ってほしいし、国内の他の医療機関とも情報共有するなど連携し、島根県に住んでいて標準的な検査や治療を提供できるように一層研究を進めていきたい」。

終戦直後の農村を研究 生活改善普及事業が生む 農民の暮らしや意識の変化

G H Q 指導で進めた 農村の民主化

終戦後、日本はアメリカを中心としたG H Q（連合国軍総司令部）の占領下に置かれていました。G H Qは、政治や経済、教育、社会などあらゆる面での「非軍事化」「民主化」を日本政府に求めましたが、中でも喫緊の課題の一つとされたのが軍国主義の温床とされた農村の民主化でした。中間助教は、「当時の農家は栄養や衛生に関する知識が少なく、特に女性の権利は無きに等しいほど低いものでした。長年の慣例や習慣を外圧的に変えることが可能だったのか興味を覚え、研究を始めました」と説明します。

約70年前の終戦直後、日本は現在の豊かな暮らしからは想像もできないほど貧しく、個人の権利や考えは軽視されていました。そんな中、G H Qの指示で進められた政策の一つが、農家の生活改善や民主化でした。農林生産学科の中間由紀子助教は、この生活改善普及事業に注目、当時の実態を調べています。



PROFILE

生物資源科学部 農林生産学科

中間 由紀子 助教

な か ま ゆ き こ

かつて農村の女性たちは、家畜と同程度にしか存在価値が認められずに「角のない牛」と呼ばれるなど、非常に低く扱われていました。当時彼女らの生活改善を願って事業を推進した普及員さんたちは皆、前向きで意思が強く、現代の私たちが学ぶべき点を多く感じています。



1



2



3

1.聞き取り調査で岩手県下閉伊郡岩泉町を訪れた際の一コマ。2.「手作り自治区柿木村」(鳥根県吉賀町)主催の会で、伝統食の見直し・継承について講演する中間助教。3.柿木村で行われた「第4回食の文化祭」の様子。

アメリカから導入された生活改善普及事業は、1948年に制定された農業改良助長法に基づいて進められ、農家の生活改善を目的としました。事業の最終目標とされたのが、「考える農民」の育成でした。「民主主義が浸透しているアメリカ発祥の事業。上からの押し付けではなく、農民が自主的に自らの生活改善を考えていくことの大切さをうたっていたようです」と中間助教。国の通達を受けて各都道府県は、農業改良普及員と生活改良普及員を採用。普及員は、自発的に任意に農民によって作られた生活改善グループの育成を図って、事業の浸透を目指そうとしました。

農民の生活が改善 女性の意識改革にも

中間助教はこれまで鳥根を始めとする中国地方や、地域的により封建的な性格が強い東北地方で聞き取り調査などを実施。普及員が栄養のある保存食の作り方を指導したり、燃焼効率が悪く煙害も

あったかまどの改善を指南したりして、生活状況の改善は大幅に図られました。その一方、自主的な組織形成は難しく、婦人会など既存の組織を活用せざるを得なかった実態も見えてきました。「栄養摂取の重要性が浸透していなかった当時、農繁期には漬物とご飯だけでお腹を満たし、胃を患う人も少なくありませんでした。また煙の通り道のないかまども多く、目の病気になる人もいたため、改良かまどや煙突の設置を指導していきました」と中間助教。一方、名望家層を頂点とした支配構造が残る農村で新たな組織を作ることは難しく、生活改善を優先するためには事業の理念に反して既存組織を利用する地域も少なくありませんでした。しかし中間助教は、事業が農民の意識を変えた点も挙げます。「自分の生活は常に後回しだった女性たちに新たな考え方を伝え、大きな影響を与えたはず」。

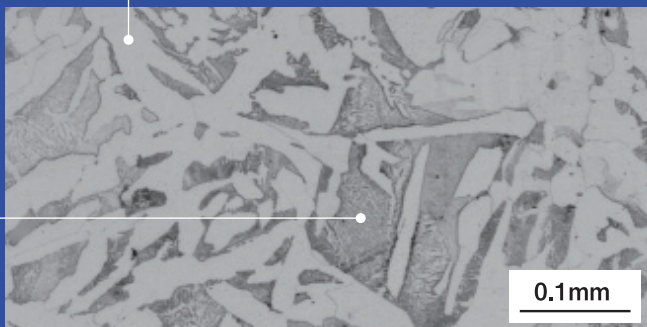
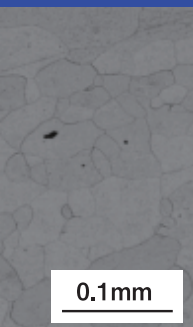
昨年からは、当時アメリカが直接統治していた沖縄での調査・研究もスタートさせました。「今、地域振興で活躍する女性たちのルーツが当時にあるのかも。意識向上や技術的な進歩も時代を経て、実現されてきているように感じます」。

古くて新しい鉄鋼材料 結晶構造を制御して さらなる進化を狙う

炭素含有量の多少で
硬度や強度が変化

の増加による鋼の内部変化

フェライト(※1)

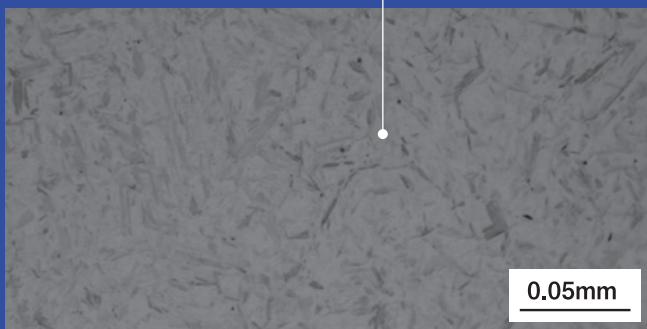


Fe-0.4mass%C (鋼100g中に炭素が0.4g入っています)

パーライト(※2)



マルテンサイト(※3)



0.8mass%C (鋼100g中に炭素が0.8g入っています)

「鉄」と「鋼」の違いをご存知でしょうか。「鉄」と言う時には「元素の鉄」という意味で使われることが多いのに対して、鋼とは、鉄を主成分とし、炭素などを含んだ金属材料を指します。一般的に2・1%以下の炭素を含む鉄-炭素合金を「鋼」と呼び、それ以上の炭素を含む合金を「鑄鉄」と呼びます。「純粋な『鉄』は皆さんが思うよりも柔らかく加工しやすいので飲料用の缶等に使われます。そのような『鉄』にほんの少し炭素を加えると強い『鋼』になるのです」と森戸教授。さらに鉄は一定の温度まで下がると、結晶構造が変わり、鉄と



PROFILE

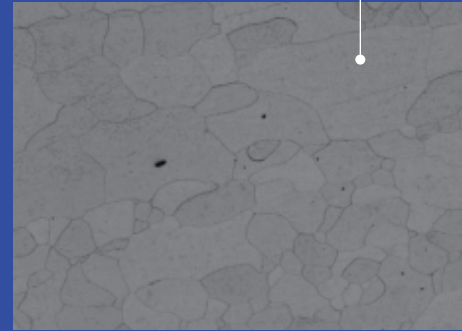
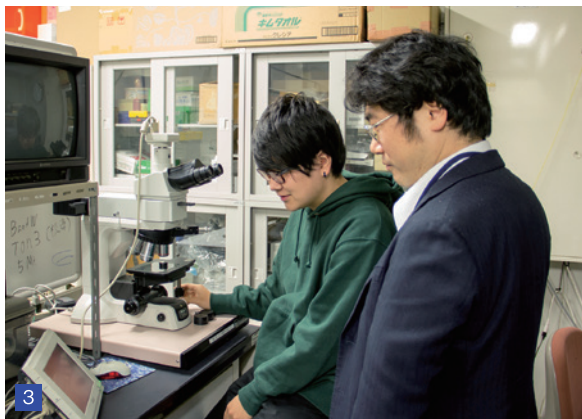
次世代たたら協創センター
森戸 茂一 教授
もりと しげかず

鉄鋼材料は身近に存在するため、壊れた時しか注目されないのが少し悲しいですね。阪神淡路大震災では鉄骨の破壊が大きく取り上げられました。16年後の東日本大震災ではニュースになりませんでした。この間に研究が進み、地震でも壊れないように鉄鋼材料が進化を遂げたのです。

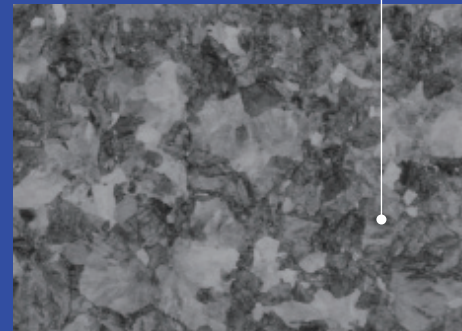
古代より暮らしの様々な場面で使われ、人類の発展に不可欠な存在の一つともいえる金属。それが鉄鋼です。しかしその構造は未だに不明な点が少なくありません。次世代たたら協創センターの森戸茂一教授は、鉄鋼を始めとする様々な金属材料の構造を研究。中でも強度の強い「鋼」に注目しています。



1. 光学顕微鏡でみた鋼の様子。炭素量の増加によって鋼の内部が変化している様子が分かる。Fe-0.8mass% Cの左の画像は、赤熱するまで加熱した後で徐々に冷却した内部構造で、右は左と同じように加熱した後で水中に入れて急冷した鋼の内部構造。(※1) フェライト…α相、bcc構造を持つ鉄(※2) パーライト…フェライトとセメンタイト(θ相、鉄の炭化物)が層状に並んでいる(※3) マルテンサイト…相としてはα'と呼ばれている。フェライトに炭素が無理矢理入った構造。2. オックスフォード大学で行われたワークショップに、次世代たたら協創センターのメンバーで参加した際の様子。3. 森戸教授の研究室に所属する学生による実験の様子。



純鉄



Fe-0.8m

1

炭素の化合物も生じます。この化合物の比率が大きいと硬くなる一方、もろくなります。つまり鉄の強度は、温度による結晶構造の変化が大きく左右するのです。「鉄鋼材料には炭素以外にも多くの元素が入っており、様々な金属や化合物を含みます。これらの構造を完全に制御できれば、今以上に鉄鋼材料の性能を引き出せると考えています」。

元々森戸教授は、形状記憶合金の研究を行っていました。鉄を始め、多くの金属材料が外から大きな力を加えると変形前の形に戻らないのに対し、ニッケルチタン合金など一部の合金は、変形後に一定の温度以上に加熱すると元の形状に回復します。隣り合う原子の結合の手を切り離さず、位置を少しずつずらして変形するため、加熱すると元の位置に戻ろうとするのです。「一方、鉄は通常、原子の位置が変わって炭化物が生まれます。しかし急に冷やすと形状記憶合金と同様の構造変化をします。これが日本刀の製造などに使われてきた『焼き入れ』です」。森戸教授の説明は続きます。「『焼き入れ』ることによって、炭素が鉄の結晶内に

無理やり入り込むとともに、きれいに並んでいた鉄の結晶に乱れが生まれます。無理やり入った炭素と乱れが『鋼』を硬くするのです」。

たたらセンターを拠点に メカニズムの解明へ

産官学の様々な分野のトップレベルの研究者と、最新設備を備えたたたら協創センター」に所属する森戸教授のもとへは、国内外の鉄鋼メーカーなどからの技術相談も少なくありません。「金属の特性は、結晶の原子配列やサイズ、方位配向などのマイクロストラクチャー(微細組織)で決まります。焼き入れの温度の違いで組織の形が変わり、もろくなったりやわらかくなったりしてしまふのです。そこで電子顕微鏡やX線などを使って原因を探り、変化のメカニズムを考えていきます。今後は、情報や数学の分野の先生方とも協力して、将来的にはニーズに応じた新たな材料開発も目指せるのではないかと考えています」。古くから利用されている鋼ですが、まだまだ進化しているのです。

地域との取り組み

島根大学 × 手銭記念館



「草庵和歌集 上」(手銭家所蔵)

島根大学は、各学部・学科単位で県内の様々な市町村・企業等と繋がりを持っています。その広い繋がりの中で、どのような分野で連携し、どのような効果が生み出されているのでしょうか。今回は出雲市にある『公益財団法人手銭記念館』との取り組みを紹介します。



歴史分野の研究や 人材育成で連携

島根大学は十数年にわたり、手銭家に伝わる主に文学関係資料を中心に調査研究及びデジタル化と公開を進めてきました。平成26年に、手銭記念館の調査研究と資料の活用をより一層進めるため、島根大学法文学部山陰研究センター、島根大学附属図書館、手銭記念館が連携して、「出雲文化活用プロジェクト」を発足。プロジェクト発足以来、毎年様々な取り組みを行っています。

令和元年5月には、包括的連携に関する協定を締結。これまでの事業を土台に、手銭家に伝わる様々な資料を活用した総合的な研究や本学学生の教育の場としての活用をさらに進めるとともに、インバウンドなど新たな分野での事業の展開も期待されます。

今回は、島根大学と手銭記念館の取り組みの一部を紹介します。

島根大学と手銭記念館との連携に関する協定締結



多岐にわたる島大の教育内容、大変興味深く読ませてもらっています。

(島根県浜田市・60代男性)

卒業生の進路を詳しく知りたい。

(島根県松江市・50代男性)

内容や写真は非常に良いが、文字の小さな部分は読むのに苦労しました。

(大阪府高槻市・60代男性)



手銭記念館とは？

出雲大社の門前町として栄えた出雲市大社町に所在する手銭記念館は、手銭家に伝わる美術工芸品を展示する美術館です。同家は、江戸時代から酒造業などを営み、藩の御用宿や町役を代々務めた商家であり、美術工芸品の他に多数の古文書や古典籍が伝わっています。

取り組み 1

出雲文化活用プロジェクトの成果を報告 包括連携協定記念シンポジウム

9月14日、包括連携協定記念事業として、山陰研究センター、附属図書館、手銭記念館主催によるシンポジウム「資料から再発見する江戸の底力―手銭家所蔵資料（文書・古典籍・美術）を繋ぎ活かす取り組み―」を開催しました。数年来取り組んできた「出雲文化活用プロジェクト」の成果報告として開催したもので、当日は地域の方々を中心に約50名に参加いただきました。

島根大学法文学部の田中則雄氏による基調講演にはじまり、個別報告では、近世の文学・歴史学を専門とする広島大学大学院文学研究科の久保田啓一氏、立正大学文学部の伊藤善隆氏、島根大学法文学部の小林准士氏の3名が登壇しました。



田中則雄教授による基調講演の様子

手銭家所蔵資料から、全国的な動向と連動する出雲の文芸活動や、文芸活動の背後に横たわる松江藩と豪農層の関係も浮かび上がり、従来の近世和歌史・俳諧史を捉え直すような提言もなされました。更なる調査の進展が期待されるとともに、手銭家のみならず、各地域における文献資料調査の重要性が再確認されました。

取り組み 2

古典文学を知る・楽しむ 古典への招待

手銭記念館において、和歌研究が専門の野本瑠美准教授（法文学部）を講師に迎え、かなの読み方や古典文学の歴史、鑑賞のコツなどを学ぶことができる古典講座を4回にわたって実施しました。



手銭記念館和室で講演する野本准教授



第3回で使用したテキスト
上・三十六歌仙画帖、下・三十六歌仙屏風

取り組み 3

出雲地方の暮らしや、 文化を覗く

外国人留学生による 出雲文化体験ツアー

11月の1ヶ月間、「グローバル」なイベントが学内外で開催された「島大グローバル月間」の一環で、11月11日、外国人留学生5名が手銭記念館を訪問しました。出雲地方の美術品や伝統工芸品などの展示物を鑑賞するとともに、地元の伝統文化であるお茶席を実際に体験することで、出雲地方の暮らしと文化への理解を深めました。



お茶席体験の様子



箱の紐の結び方を体験

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.42に
寄せられた声
をお届けします。

開学70周年の表紙が素晴らしい
かったです。写真で見る歩みも
かなりのめりこみました。

(島根県隠岐郡・30代男性)

社会で活躍する卒業生の
コーナーに最も興味があります。
どんどん紹介してください。

(広島県安芸郡・50代女性)

社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 07

中学校教諭

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、出雲市立第二中学校で教鞭をふるう木下さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile

木下 眞次 さん

出雲市立第二中学校 教諭

鳥取県鳥取市出身。2009年3月、教育学部学校教育課程数理基礎教育専攻(現:数学教育専攻)を卒業。在学中に参加した活動で出会った生徒の影響もあって、鳥根県で教員採用試験を受ける。初任地は出雲市立大社中学校、その後益田市立高津中学校を経て、出雲市立第二中学校へ赴任。1年3組の担任と陸上部の顧問を務める。



授業中はうまく生徒のやる気を引き出していきます。

「自分と未来は変えられる」
全国大会出場のを
教師になってかなえたい

元氣な声が飛び交う1年3組の教室内には、様々な行事で入賞した賞状が飾られています。このクラスの担任で数学を担当する木下さんは、「今年、全部の行事で1位になるという目標をたてて、生徒たちに出来るよと言い続けているんです」と話します。学級運営「あたり大切にしているのは「子どもの可能性を信じる」こと。顧問を務める陸上部でも、毎日練習の最初に円陣を組んで、出来る！とみんなで声出しをしているのだそうです。「出来る」とい続けると、不思議とみんなの意識が

地元の核となる

大学のがんばりを知り、
たのしく思っています。

(鳥根県出雲市・60代女性)

70周年記念品等を

販売してほしいです。

(鳥根県松江市・50代男性)

地元大学の動きに関心があり楽しみに

読んでいます。一般講座の情報なども
伝えてください。

(鳥根県松江市・60代女性)



1年3組での数学の授業風景。問題が解けると我先にと手を挙げる生徒たち。

変わって、良い方向に向かっているですよ」。

木下さんと陸上部——。ここに、教師を目指したきっかけがあります。中学・高校と陸上部に所属し、全国大会を目指していましたが、達成できませんでした。当時の陸上部の監督だった先生

も高校時代に全く同じ経験をしたそう、指導者となって全国大会を目指す姿を見て、木下さん自身も教師になってまた学校に戻ってこようと決意したそうです。

気付けば2000時間超 4年間の体験を通じて 実践経験を積み重ねる

教師を目指して入学した島根大学。教育学部では1000時間体験学修がスタートして間もない頃でした。1000時間体験ではボランティア活動や教育実習、地域体験など、様々な活動を行います。「活動を通じて直接子どもたちと関わる機会があっただけでなく、地域の大人とも接するのでコミュニケーション力も養われたと思います」。

中でも木下さんがのめりこんだ活動が「出雲の子リーダー養成研究会」です。年に6回、小学2〜6年生を中心に40〜50名が集まって、県内の様々な場所で宿泊体験やキャンプ、旅行のプランニングなどを実施するものです。もともとは、友人に誘われて子どもたちのサポート役として活動に参加。小学生が主対象だったこともあり、ほと

んどが初等教育専攻の学生でしたが、気付けば4年間続けられました。「この活動にはまりすぎて、実際には合計で2000時間くらいは活動していたかもしれせん」と笑います。

活動に参加していた生徒たちが小学校を卒業する頃、木下先生が中学の担任してくれたらうれしいのに」と言われたことで、地元ではなく島根県での教員採用試験を決意。見事に採用試験に合格し、最初に赴任した大社中学校が、偶然にもその生徒たちが通う中学校だったのです。「持ちあがりです3年間担任をさせてもらうという素晴らしい経験ができました」。

教わる側から教える側へ 子どもたちの夢をかなえる その一役を担いたい

教師になって10年、木下さんに教わったことがきっかけで島根大学教育学部へ入学、教師になる夢を果たした教え子がいます。在学中は出雲の子リーダー養成研究会にも参加してくれていたそうです。

「自分との出会いを通じて、同じ道を歩もうと思ってくれる生徒がいることはすごくうれしいですね」



陸上部の練習風景。昨年男子リレーで念願の全国大会に初出場し、今年も2年連続で全国の舞台に立った。

と、照れくさそうに笑う木下さん。

「1000時間体験活動で県内各地に子どもたちを連れていくと、地域の方がみんな声をかけてくれます。知らない人たちが来た時に、他人事じゃない地域性というのも、島根ならではの温かさかなと。島根で教師を目指すなら、やっぱり島根大学がいいと思います。座学でも知識は得られますが、実践経験が度胸につながるんです」。自ら足を運んで学んだことこそ、現場では生きてくる場面が多いと、実感を込めます。

島根大学における「教壇に直結する学び」が、現在の木下さんの基盤になっています。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.42に
寄せられた声をお届けします。

子どもたちが将来島大に
行って勉強したいと
思うような企画をしてほしい。

(島根県松江市・30代女性)

開学70周年の歴史を知り、
地域社会への貢献の大きさを
実感しました。

(長野県松本市・60代男性)

しまだいいり

大学の
旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

島根大学の地域貢献が全国的に評価 『大学の地域貢献度ランキング』で総合4位



『日経グローカル』374号（10月21日発行）で発表された「大学の地域貢献度調査」で、島根大学が昨年の18位から順位を上げ、全国総合4位にランクインしました。このランキングは、日本経済新聞社が全国755の国公立私立大学を対象に、大学が地域社会にどのような貢献をしているかを探る、「地域貢献度」の調査を行い、その回答を基に「大学の組織・制度」「学生・住民」「企業・行政」「グローカル分野」「働く場としての大学」の5つの分野の得点を合計して順位づけしたものです。「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指す本学は、今後も様々な課題に取り組み、地域社会に貢献していきます。

TOPICS

2

航空宇宙産業を担う次世代の人材の育成支援 『ロールス・ロイスサイエンスキャンプ』開催



10月5日（土）、6日（日）に、本学を会場に「ロールス・ロイスサイエンスキャンプ2019」を開催しました。この事業は、航空宇宙産業を担う次世代の人材を育成するSTEM教育を支援するロールス・ロイスジャパン株式会社が主催し、島根大学、島根県等の共催・後援により行われました。県内17名の高校生が参加し、オリジナル制作したホバークラフトを競うプレゼンテーション等を実施しました。

TOPICS

3

図書館での活動を充実させるための交流事業 大学図書館学生協働交流シンポジウム開催



9月5日（木）、6日（金）に、第9回大学図書館学生協働交流シンポジウムを本学を主会場に開催しました。このシンポジウムは、大学図書館で様々な活動を行っている学生やそれをサポートする教職員が全国から集まり、他団体と交流を行うことを目的として毎年開催しています。今回は、24大学28団体より、116名が参加しました。運営に当たっては、島根大学と島根県立大学が業務を主管しました。

Q 「広報しまだいいり」の発行日はいつですか？

A 年4回（1、4、7、10月）発行しており、次号は令和2年4月に発行予定です。

その他の回答はこちらをご覧ください





TOPICS

4

「大学と企業の懇談会 特別版」を開催

大学と企業の意見交換で地域活性化に寄与する

10月2日(水)に、「大学と企業の懇談会 島根大学開学70周年記念特別版」を本学の大学ホールで開催しました。この事業は、本学学生の採用・インターンシップ等でお世話になった企業やしまね協働教育パートナーシップの登録団体と、本学就職担当教員等との意見交換等を目的に毎年実施しています。今年度は講演会形式で実施し、前半は企業対象講演に95社122名、後半は学生対象講演に90名が参加しました。

服部学長の開会挨拶の後、本学法文学部のOBであり、現在SBテクノロジー株式会社代表取締役社長CEOを務めておられる阿多親市氏の講演を行いました。

前半は阿多氏から参加企業に向けて、テクノロジーの進化や山陰地域での活用に関して述べられました。後半の学生対象講演では、阿多氏ご自身が学生だった頃の就職活動から、現在の仕事に関する幅広いお話しをいただきました。参加した学生は熱心に耳を傾け、質疑応答では次世代の情報技術や働くことについて多くの質問が寄せられました。

TOPICS

5

タイ・チェンマイ大学で研修実施

企画力とプレゼンテーション能力を身に着ける



8月18日(日)～9月1日(日)にかけて、交流協定を締結しているタイ・チェンマイ大学において「グローバル課題解決型研修」を実施し、法文学部、医学部、総合理工学部から計5名の学生が参加しました。この研修には、タイの文化や観光産業についての講義、英語プレゼンテーションスキル研修等が盛り込まれており、参加学生からは「毎日がとても充実していた」などの感想が聞かれ、成長を実感できる研修となりました。

みふねの家から始まる、
あなたと家族の物語。

家族が集う。笑顔があふれる。

みふね
mitune-gumi co.,ltd.

〒693-0001 島根県出雲市今市町311番地9

0120-20-7124

<https://www.mifune.info>
E-mail: kmifune@lime.ocn.ne.jp

みふねぐみ 検索

—あしたへ、未来へ—
地域創造企業

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。

<http://www.showa00.co.jp/>

建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事

株式会社 昭和測量設計事務所

あしたへ 未来へ
求人のお問い合わせは 営業エリア：島根、広島、山口、鳥取、岡山

【益田本社】島根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】島根県浜田市治和町832-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・川本

おかげさまで35年目

SHOWA

荒れた森林を元気にしよう!
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなの
森を守ろう!

山陰合同銀行

「読者の声」にお答えします



10月10日(木)、出雲市内のホテルにおいて医学部附属病院開院40周年記念式典が、15名の来賓、県内57関連病院の病院長等と当院関係者ら総勢117名が出席し、挙行されました。

式典は、井川病院長による開式の挨拶、服部学長からの挨拶の後、丸山達也島根県知事(藤原孝行島根県副知事による代読)、森本紀彦島根県医師会会長(秦正島根県医師会副会長による代読)から祝辞を頂戴しました。

次に、「附属病院40年のあゆみ」と題して井川病院長による講演があり、40年の歴史を振り返るとともに、これからの医学部附属病院の在り方を展望しました。続いて「国境なき医師団の信念と活動」と題して、本学卒業生で、国境なき医師団会長の加藤寛幸氏に講演いただき、エボラ出血熱に対する緊急援助等の活動を、写真や映像を交えての講演に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

式典終了後の祝賀会では、本学シニールカメラート管弦楽団による演奏の中、参加者が終始なごやかに歓談、交流を深めました。



NSK
日本システム開発
〒690-0003
松江市朝日町480番地8
松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175
<https://www.nskint.co.jp/>

しまねで
エンジニアを
目指しませんか？

こちらからもアクセスできます

スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!
島根大学の芋焼酎 **神在の里**

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培されたサツマイモから誕生した「芋焼酎」
●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。
■神在の里の取り扱い・お問い合わせは

島根大学生協同組合
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel:0852-32-6240
<https://www.shimadai.coop/>

YANMAR
ディーゼルエンジン用部品/産業機械用部品
鋳物素材～加工完成・組立～貫生産
テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創出する

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部) 〒690-0025 島根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355
(甲賀事業部・鋳造技術センター) 〒520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

<https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/>

行こう!学ぼう!ワクワクしよう!

島根大学総合博物館

月～土 10:00～17:00 (日・祝日は休館)
島根大学松江キャンパス内

広告募集

広報しまだいでは、企業・団体様等からの広告を募集します。

島根大学企画広報課
TEL : 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

新聞の折込みで WEB サイトで フリーペーパーで

お仕事見つかるメリット

情報発信を通じて「働きやすい街づくり」に貢献します

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特徴を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

軽音楽部

音響設備完備！学内で気軽にバンド練習

今を時めく「ヒゲダン(※)」メンバーもかつて所属していた「軽音楽部」。現在の部員は70名、コピーバンドが中心ですが、音楽のジャンルや選曲は幅広いといいます。「音響機材が揃っているので、スタジオを借りなくても学内で気軽に練習できるのが魅力です」と、部長の阿部さん。月に1度行う学内ライブに向けて15前後のグループを組んで練習を重ねます。ライブの際には良かったバンドに投票し、上位に入ると年1回の定期演奏会の舞台にたてます。練習環境はもちろん、評価される機会があることで、部員のモチベーションやスキルアップに繋がっているのかもしれない。

※ヒゲダン・・・Official髭男dism



2.
1. 学年を問わず仲が良いのも特長のひとつ。12月で幹部交代する阿部さんは、「部の雰囲気作りは次の代にも受け継いでほしい。あとは、新しいことにどんどん挑戦してほしい」と後輩たちへ期待をこめます。2. 学内ライブの様子。



人との繋がりを大切に目指すは3連覇！

創部から40年弱、部活の空気感とコミュニケーションを代々大切にしているバドミントン部。毎年8月に開催される西医体では、44大学が出場した男子団体で2連覇を達成。個々の実力が異なる中での練習は、全員が納得できる妥協点を探らなければいけない苦労もあると、41期主将の島原さんは言います。「先輩や同期、後輩と、いろんな人に助けられました。いろんな人たちとの繋がりができたことが一番の収穫だったのかも」と振り返ります。10月をもって次の代へと引き継ぎを終え、「勉強と両立しつつ、3連覇に向けて頑張してほしい」と後輩たちへエールを送ります。

出雲キャンパス

医学部 バドミントン部



2.
1. 全員で約70名の大所帯。部員の約9割が初心者ですが、中にはインターハイ出場経験者も。2. 練習では、学年の垣根なく互いに教え合うのが特長です。部活が終わった後に自主練に励む学生も多いのだとか。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

支援基金によって附属幼稚園にツリーハウス完成

令和元年10月2日、島根大学教育学部附属幼稚園にて『ツリーハウス』竣工式を開催しました。このツリーハウスは、株式会社日新様より島根大学支援基金(教育学部附属学校の教育研究活動等に対する支援)にいただいた多額のご寄附によって整備をすることができたものです。楽しみにしていたツリーハウスで子どもたちは夢中になって遊んでいました。



▲桶にどんぐりを流して遊ぶ園児。
ツリーハウスの壁にはロボ木ー(山下晃功 島根大学名誉教授考案の木育キャラクター)の型抜きがある。



▲ツリーハウスの中にあるエノキで木登り。
上を見上げると木々の四季の移ろいを観察できる。



▲テープカットの様子
株式会社日新 代表取締役社長 又賀航一様(右)、
円建創株式会社 代表取締役 安達盛二様(左)、島根大学 支援基金担当理事 藤田達朗(中央)

支援基金と島大会員についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。なお、お電話でのご請求も承っております。



支援基金HP

TEL 0852-32-6015 <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただき仕組みです。パンフレットは下記ホームページに掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※令和元年8月16日～令和元年11月15日までに年度内累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

法人等からのご寄附

島根島津株式会社 元旧制松江高校同窓会広島支部

個人からのご寄附

青木雄二	青砥玉枝	秋重幸邦	吾郷富士夫	浅尾治郎	新井清市	池田英二	池田博志	伊東照芳	伊藤幹夫
入江文子	岩崎洋亮	岩田 奨	岩本秀俊	植田敏也	上野 誠	牛尾弘隆	占部義和	漆谷壽美子	大上裕史
岡田光弘	岡信 章	鬼形和道	尾原昭夫	尾原美和子	楯 英子	加藤遼一	鎌田益幸	神谷年洋	笠原善郎
吉川通彦	木原淳一	木村 猛	高下直樹	河野美江	小林祥泰	境 英俊	坂田正昭	佐藤利夫	佐山 一
杉原 明	須山弘一	千家充伸	園山 薫	田坂郁夫	田中 滋	田部 恵	谷垣 尚	徳田浩一	長井敦司
永森忠嗣	名取瑞樹	縄手雅彦	西永 寿	野本晃史	秦 公平	服部泰直	花山 寛	瀧田 太	早坂まり
廣光一郎	福井 勇	福岡栄子	藤本正昭	松浦晃幸	松浦良紀	松田克己	馬庭壯吉	馬庭洋美	丸田健一
棟石 均	元上竹松	杜山総一郎	森脇久美子	門城祐司	安友政男	山村明弘	山本則文	山本則文	行武禎一
								吉田 靖	吉見 顕
									東 泰雄
									久富公資
									武藤哲也
									渡邊正人

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015(総務課 支援基金担当) <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

本学では開学70周年記念事業として「古代出雲文化フォーラム」を開催します。ご都合のつく方は是非お越しください。(詳細は裏表紙をご確認ください。)今号の特集1では、本学とインドとの学術・文化交流の取り組みや学長と駐日インド大使との対談、特集3では、2016年から2030年までの国際目標である持続可能な開発目標(SDGs)について、本学での取り組みやSDGs行動指針を紹介させていただきました。本学では多方面で国際化が進んでおり、海外へ留学する日本人学生も年々増加しています。広報しまだいではこのような取り組みも含め様々な情報を発信してまいります。本年も引き続きよろしくお願いたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <https://www.shimane-u.ac.jp>

こちらからもアクセスできます



PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工した「ブルーベリージャム(1瓶)」をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和2年3月6日(金)必着





GLOBAL

量産工場へ
高機能治具で
モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030
<http://www.gl-b.co.jp/>



一畑グループは総合力を発揮して、
地域協働で新たな価値を創造し、
豊かな郷土づくりに貢献します。

一畑電気鉄道株式会社 | 一畑電車株式会社 | 一畑バス株式会社

松江一畑交通株式会社 | 出雲一畑交通株式会社 | 隠岐一畑交通株式会社

株式会社一畑トラベルサービス | 株式会社ホテル一畑 | 株式会社平田自動車教習所 | 株式会社山陰一畑クッキング

株式会社一畑パーク | 株式会社一畑百貨店 | 株式会社一畑友の会 | 株式会社カーテックス一畑 | 一畑工業株式会社 | 一畑住設株式会社

島根で
造ろう。
作ろう。
創ろう。

みなさんに
笑顔と感動を
つくります!

With
MATSUEDOKEN

松江土建株式会社

本社 〒690-8513 松江市学園南二丁目3番5号
TEL:0852-21-3521 FAX:0852-21-8285
☎0120-18-3521 受付時間 8:30~17:30(平日)

信頼の実績・高品位ソフトウェア開発

SOFT KAIHATSU
Everything begins with one will.

お陰様で35周年
株式会社ソフト開発

東京 本社：東京都町田市鶴間 TEL:042-795-7613
広島オフィス：広島市安佐南区西原 TEL:082-850-0877
福岡オフィス：福岡市博多区博多駅東

http://www.softkaihatsu.co.jp

新たなチャレンジと
さらにその先まで

「あったらいいな」から「なくてはならない」存在へ

イーウェルでは、福利厚生や健康支援サービスを通じて、健康で豊かな企業社会と地域社会の実現をトータルでサポートしています。

株式会社イーウェル

松江オペレーションセンター
島根県松江市玉湯町布志名767-31 業務部人事グループ
☎0852-60-0512 <https://www.ewel.co.jp/>

島根大学開学70周年記念事業



出雲市山持遺跡の楽浪土器
提供：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター



松江市上野II遺跡の鉄素材・鉄銹
提供：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

古代出雲文化フォーラム

Forum on Ancient Izumo Culture

VIII

東アジアと出雲

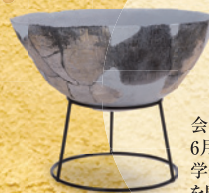
日本海をはさんで一衣帯水の関係にある出雲と韓半島・中国大陸。古代から、この海を通じて人・モノ・情報が往来してきました。今回のフォーラム第1部では、日韓の研究者が島根に集い、出雲と東アジアとのこうしたグローバルな交流について考えていきます。第2部では、このような歴史・風土をもつ島根の地において、開学70周年を迎えた島根大学の現在の取り組みをご紹介します、地域や国際社会に貢献していく本学の将来を展望します。

《両日とも》
参加費無料
事前申込必要

古代出雲バスツアーは定員に達しましたので、申込を締め切らせていただいております。



旧制松江高校時代に使用されていたドイツ製光学顕微鏡



島根大学から出土した縄文土器

島根大学総合博物館出張展示

会場のスペースで一昨年6月にオープンした島根大学総合博物館所蔵の資料を展示します。

2/29



アシカル

令和2年 2月29日(土)

会場 くにびきメッセ 国際会議場
松江市学園南1丁目2番1号 TEL.0852-24-1111
時間 13:30~17:00 **開場** 12:30~
定員 300名
※事前にお申し込み頂いた方には、後日入場整理券を送付します。
第1部 シンポジウム **第2部** 島根大学の取組
展示 島根大学総合博物館出張展示

令和2年 3月1日(日)

【特別企画】 ※29日のフォーラムにご参加頂ける方を対象とします。
島根大学 古代出雲バスツアー開催
東アジアと出雲にゆかりのある資料や展示品を実際に見てみませんか？
行き先 ●松江市立鹿島歴史民俗資料館
●島根県立八雲立つ風土記の丘
時間 8:45~12:00 (JR松江駅発着) **定員** 40名
ポイント 29日に登壇する本学の教員が講演内容にまつわる展示品の解説を行います。古代出雲の世界を堪能して頂くバスツアーです。

韓国 靑島遺跡 遠景

◎お問い合わせ先

島根大学企画部企画広報課 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6630
E-mail: forum@office.shimane-u.ac.jp
https://www.shimane-u.ac.jp/ 古代出雲文化フォーラム 検索



【主催】 島根大学

【共催】 島根県・島根県教育委員会・松江市・出雲市
安来市・雲南市・奥出雲町・飯南町
【後援】 文化庁・TSK山陰中央テレビ・山陰中央新報社
BSS山陰放送・日本海テレビ・山陰ケーブルビジョン
株式会社山陰合同銀行



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学